

安全データシート (SDS)

< 1. 製品及び会社情報 >

製品名 ポリマキャップ 充填材
コード 9450-9001
会社名 水谷ペイント株式会社
住 所 大阪市淀川区西三国 4 丁目 3 番 9 0 号
担当部門 品質管理課
電話番号 06-6394-2653 FAX 番号 06-6391-3429
緊急連絡先 水谷ペイント株式会社 SC 統括部
電話番号 06-6391-3151
製品の種類 副資材 (ボルトキャップの構成部品)
用 途 建築用、その他
作 成 2005年 3月 25日
改 訂 2021年 5月 1日

< 2. 危険有害性の要約 >

【GHS分類】

引火性液体 : 区分に該当しない
急性毒性 経口 : 区分に該当しない
 経皮 : 区分に該当しない
 吸入(ガス) : 分類できない
 吸入(蒸気) : 区分に該当しない
 吸入(粉塵、ミスト) : 区分に該当しない
皮膚刺激/腐食性 : 区分に該当しない
眼損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない
呼吸器感作性 : 分類できない
皮膚感作性 : 区分に該当しない
生殖細胞変異原性 : 区分に該当しない
発がん性 : 区分に該当しない
生殖毒性 : 区分に該当しない
特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露) : 区分に該当しない
特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露) : 区分に該当しない
吸引性呼吸器有害性 : 区分に該当しない
水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない
オゾン層への有害性 : 分類できない

【GHSラベル要素】

なし

【危険有害性情報】

なし

【注意書き】

〈予防策〉

- ・容器を密閉しておくこと。
- ・取扱時には飲食や喫煙をしないこと。
- ・保護手袋/保護眼鏡/保護マスクを着用すること。
- ・屋外または換気の良い場所のみで使用すること。
- ・取扱後は手をよく洗うこと。
- ・環境への放出を避けること。

〈応急措置〉

- ・目に入った場合 : 水で数分間注意深く洗う。コンタクトを使用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ・飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。吐かせないこと。口をすすぐこと。
- ・皮膚等に付着した場合 : 直ちに汚染した衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を大量の水や石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の手当てをうけること。
- ・吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。
- ・暴露又は暴露の懸念が有る場合 : 医師の診断/手当てを受けること。
- ・漏出した場合 : 漏出物を回収すること。

〈保管〉

- ・涼しく換気のよい場所で施錠して、保管すること。

〈廃棄〉

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に業務委託する。

< 3. 組成、成分情報 >

単一製品・混合物の区別：混合物（アクリル系水性シーリング材）

危険有害成分：

化学物質名	CAS No.	含有量 (%)	備考
エチレングリコール	107-21-1	0.8	

< 4. 応急措置 >

目に入った場合：

- ・直ちに大量の清浄な水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗う。
- ・出来るだけ早く医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：

- ・付着物を布などで素早く拭き取る。
- ・大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しない。
- ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合は医師の診断を受ける。

吸入した場合：

- ・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：

- ・誤って飲み込んだ場合は、安静にして直ちに医師の診断を受ける。
- ・嘔吐物は飲み込ませない。
- ・医師の指示による以外は無理に吐かせない。

< 5. 火災時の措置 >

特定の消火方法：このものには可燃性はない。

< 6. 漏出時の措置 >

- ・作業の際は適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
- ・漏出物は密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をする。
- ・スコップ、ウエス等で回収する。大量の流出には盛り土などで流出を防ぐ。
- ・水での洗浄なども、河川等へ排出され環境への影響を起こさないように注意する。

< 7. 取扱い及び保管上の注意 >

取扱い：

- ・換気の良い場所で取扱う。
- ・容器はその都度密栓する。

保管：

- ・日光の直射を避ける。
- ・通風の良いところに保管する。屋内に保管する。
- ・保管時の温度は5℃以下、あるいは40℃以上にならないようにする。

< 8. 暴露防止及び保護措置 >

危険有害成分の暴露濃度：情報を有していない。

設備対策：給排気が充分取れる設備とする。

保護具：

- ・目の保護 ; 取扱いには保護メガネを着用する。
- ・皮膚の保護 ; 有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- ・呼吸系の保護 ; ミストなどの吸入を防ぐマスクを着用する。

< 9. 物理的及び化学的性質 >

物理状態：

- ・形 状 ; ペースト状 ; 臭 い ; 特になし
- ・色 ; グレー

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲：

- ・密 度 ; 1.5 ~ 1.6 g/cm³ ; P H ; 8 ~ 9

< 10. 安定性及び反応性 >

安定性 : 通常の条件下では安定性に問題はない。

危険有害反応可能性 : 製品自体は重合しない。

避けるべき条件 : 特に情報が得られていない。

混触危険物質 : 特に情報が得られていない。

危険有害な分解生成物 : 燃焼するとホルムアルデヒド、NO_x、COを生成することがある。

< 11. 有害性情報 >

生殖毒性 : エチレングリコール (区分1B)

< 12. 環境影響情報 >

- ・漏洩時、廃棄などの際は、環境に影響を与える恐れがあるので取扱いに注意する。
- ・特に製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処する。
- ・本製品の分解性、蓄積性、魚毒性については情報を有していない。

<13. 廃棄上の注意>

- ・廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
- ・容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さない。
- ・廃水処理等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をする。

<14. 輸送上の注意>

- ・共通：・取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。
 - ・容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
- ・陸上輸送：法規に該当しない。
- ・海上輸送：法規に該当しない。
- ・航空輸送：法規に該当しない。
- ・国連分類及び国連番号：該当しない

<15. 適用法令>

- ・化学物質管理促進法（P R T R法）
非該当
- ・消防法 非危険物

<16. その他の情報>

主な引用文献

- ・(社)日本塗料工業会編集「GHS対応SDSラベル作成ガイドブック」
 - ・(社)日本塗料工業会編集「SDS用物質データベース」
-

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づき作成していますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。

未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要で、ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い致します。

安全データシート (SDS)

< 1. 製品及び会社情報 >

製品名 ポリマキャップ フィルム状シール材
コード 9450-9002
会社名 水谷ペイント株式会社
住 所 大阪市淀川区西三国 4 丁目 3 番 9 0 号
担当部門 品質保証課
電話番号 06-6394-2653 FAX 番号 06-6391-3429
緊急連絡先 水谷ペイント株式会社 SC 統括部
電話番号 06-6391-3151
製品の種類 副資材 (ボルトキャップの構成部品)
用 途 建築用、その他
作 成 2005年 3月 25日
改 訂 2021年 5月 1日

< 2. 危険有害性の要約 >

【GHS分類】

引火性液体 : 区分に該当しない
急性毒性 経口 : 分類できない
 経皮 : 区分に該当しない
 吸入(ガス) : 分類できない
 吸入(蒸気) : 区分に該当しない
 吸入(粉塵、ミスト) : 区分に該当しない
皮膚刺激/腐食性 : 分類できない
眼損傷性/眼刺激性 : 分類できない
呼吸器感作性 : 分類できない
皮膚感作性 : 分類できない
生殖細胞変異原性 : 分類できない
発がん性 : 分類できない
生殖毒性 : 分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露) : 区分に該当しない
特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露) : 区分に該当しない
吸引性呼吸器有害性 : 分類できない
水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない
オゾン層への有害性 : 分類できない

【GHSラベル要素】

なし

【危険有害性情報】

なし

【注意書き】

< 予防策 >

- ・ 容器を密閉しておくこと。
- ・ 取扱時には飲食や喫煙をしないこと。
- ・ 保護手袋/保護眼鏡/保護マスクを着用すること。
- ・ 屋外または換気の良い場所のみで使用すること。
- ・ 取扱後は手をよく洗うこと。
- ・ 環境への放出を避けること。

< 応急措置 >

- ・ 目に入った場合 : 水で数分間注意深く洗う。コンタクトを使用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ・ 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。吐かせないこと。口をすすぐこと。
- ・ 皮膚等に付着した場合 : 直ちに汚染した衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を大量の水や石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の手当てをうけること。
- ・ 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。
- ・ 暴露又は暴露の懸念が有る場合 : 医師の診断/手当てを受けること。
- ・ 漏出した場合 : 漏出物を回収すること。

< 保管 >

- ・ 涼しく換気のよい場所で施錠して、保管すること。

< 廃棄 >

- ・ 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に業務委託する。

< 3. 組成、成分情報 >

単一製品・混合物の区別：混合物（ゴムを含むアスファルト）

危険有害成分：

化学物質名	CAS No.	含有量 (%)	備考
鉱油	—	90 ~ 100	企業秘

< 4. 応急措置 >

目に入った場合：

・直ちに大量の清浄な水で15分以上冷やし、付着したアスファルトはそのままにして、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：

・直ちに大量の清浄な水で15分以上冷やし、付着したアスファルトはそのままにして、医師の診断を受ける。

吸入した場合：

・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受ける。

嘔吐がある場合は顔を横向きにして、体を毛布等で覆い、保温し安静にして医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：

・無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受ける。

< 5. 火災時の措置 >

消火剤：・粉末 ・炭酸ガス ・泡

特定の消火方法：・水を消火に用いてはならない。指定の消火器を使用する。

・適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。

・可燃性のものを周囲から素早く取り除く。

・高温にさらされる密閉容器は水を掛けて冷却する。

・消火活動は風上から行う。

< 6. 漏出時の措置 >

・作業の際は適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。

・漏出物は密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。

・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をする。

・スコップ、ウエス等で回収する。大量の流出には盛り土などで流出を防ぐ。

・水での洗浄なども、河川等へ排出され環境への影響を起こさないように注意する。

< 7. 取扱い及び保管上の注意 >

取扱い：

・換気の良い場所で取扱う。

・容器はその都度密栓する。

・周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。

・静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。

・工具は火花防止型のものを使用する。

・作業中は帯電防止型の作業服、作業靴を使用する。

保管：

・日光の直射を避ける。

・通風の良いところに保管する。屋内に保管する。

・火気、熱源から遠ざけて保管する。

< 8. 暴露防止及び保護措置 >

危険有害成分の暴露濃度：情報を有していない。

設備対策：給排気が充分取れる設備とする。

保護具：

・目の保護；取扱いには保護メガネを着用する。

・皮膚の保護；有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

・呼吸系の保護；ミストなどの吸入を防ぐマスクを着用する。

< 9. 物理的及び化学的性質 >

・形状；黒色で常温では固体

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲：

・密度；1.0 g/cm³ ・溶解性；水に不溶

< 10. 安定性及び反応性 >

安定性：通常の条件下では安定性に問題はない。

危険有害反応可能性：製品自体は重合しない。

避けるべき条件：高温の場合液体、火傷の恐れあり、又発生するヒュームに引火する恐れがある。

混触危険物質：高温加熱したアスファルトに水が接触すると水蒸気爆発する。

危険有害な分解生成物：燃焼するとホルムアルデヒド、NO_x、COを生成することがある。

< 11. 有害性情報 >

特に有害性情報を有していない。

< 12. 環境影響情報 >

・漏洩時、廃棄などの際は、環境に影響を与える恐れがあるので取扱いに注意する。

・特に製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処する。

・本製品の分解性、蓄積性、魚毒性については情報を有していない。

<13. 廃棄上の注意>

- ・ 廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
- ・ 容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さない。
- ・ 廃水処理により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をする。

<14. 輸送上の注意>

- ・ 共通：・ 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。
 - ・ 容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
- ・ 陸上輸送：法規に該当しない。
- ・ 海上輸送：法規に該当しない。
- ・ 航空輸送：法規に該当しない。
- ・ 国連分類及び国連番号：該当しない

<15. 適用法令>

- ・ 化学物質管理促進法（P R T R法）
非該当
- ・ 労働安全衛生法 通知物質（鉱油）
- ・ 消防法：指定可燃物（可燃性固体類）

<16. その他の情報>

主な引用文献

- ・ (社)日本塗料工業会編集「GHS対応SDSラベル作成ガイドブック」
 - ・ (社)日本塗料工業会編集「SDS用物質データベース」
-

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づき作成していますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。

未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要で、ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い致します。

安全データシート (SDS)

< 1. 製品及び会社情報 >

製品名 ポリマキャップ ポリエチキャップ
コード 9450-9003
会社名 水谷ペイント株式会社
住 所 大阪市淀川区西三国4丁目3番90号
担当部門 品質管理課
電話番号 06-6394-2653 FAX 番号 06-6391-3429
緊急連絡先 水谷ペイント株式会社 SC統括部
電話番号 06-6391-3151
製品の種類 副資材 (ボルトキャップの構成品)
用 途 建築用、その他
作 成 2005年 3月 25日
改 訂 2021年 5月 1日

< 2. 危険有害性の要約 >

【GHS分類】

引火性液体 : 区分に該当しない
急性毒性 経口 : 分類できない
 経皮 : 区分に該当しない
 吸入(ガス) : 分類できない
 吸入(蒸気) : 区分に該当しない
 吸入(粉塵、ミスト) : 区分に該当しない
皮膚刺激/腐食性 : 分類できない
眼損傷性/眼刺激性 : 分類できない
呼吸器感作性 : 分類できない
皮膚感作性 : 分類できない
生殖細胞変異原性 : 分類できない
発がん性 : 分類できない
生殖毒性 : 分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露) : 区分に該当しない
特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露) : 区分に該当しない
吸引性呼吸器有害性 : 分類できない
水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない
水生環境有害性 長期(慢性) : 分類できない
オゾン層への有害性 : 分類できない

【GHSラベル要素】

なし

【危険有害性情報】

なし

【注意書き】

<予防策>

- ・容器を密閉しておくこと。
- ・取扱時には飲食や喫煙をしないこと。
- ・保護手袋/保護眼鏡/保護マスクを着用すること。
- ・屋外または換気の良い場所のみで使用すること。
- ・取扱後は手をよく洗うこと。
- ・環境への放出を避けること。

<応急措置>

- ・目に入った場合 : 水で数分間注意深く洗う。コンタクトを使用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ・飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。吐かせないこと。口をすすぐこと。
- ・皮膚等に付着した場合 : 直ちに汚染した衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を大量の水や石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の手当てをうけること。
- ・吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。
- ・暴露又は暴露の懸念が有る場合 : 医師の診断/手当てを受けること。
- ・漏出した場合 : 漏出物を回収すること。

<保管>

- ・涼しく換気のよい場所で施錠して、保管すること。

<廃棄>

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に業務委託する。

< 3. 組成、成分情報 >

単一製品・混合物の区別：混合物（直鎖状ポリエチレン）

危険有害成分：有害成分は規定量含有していない。

< 3. 危険有害性の要約 >

分類の名称：分類基準に該当しない。

危険性：特に危険性の情報を持っていない。

有害性：特に有害性の情報を持っていない。

環境影響：情報を有していない。

< 4. 応急措置 >

目に入った場合：

- ・直ちに大量の清浄な水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗う。
- ・異物が目に残るようであれば、出来るだけ早く医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：

- ・付着物を布などで素早く拭き取る。
- ・大量の水及び石鹸又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しない。
- ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合は医師の診断を受ける。

吸入した場合：

- ・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：

- ・出来るだけ吐き出し、異常を感じるようようであれば、直ちに医師の診断を受ける。

< 5. 火災時の措置 >

消火剤：水・粉末・炭酸ガス・泡

特定の消火方法：適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。

- ・可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
- ・消火活動は風上から行う。

< 6. 漏出時の措置 >

- ・作業の際は適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
- ・漏出物は密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をする。
- ・スコップ、ウエス等で回収する。大量の流出には盛り土などで流出を防ぐ。
- ・水での洗浄なども、河川等へ排出され環境への影響を起こさないように注意する。

< 7. 取扱い及び保管上の注意 >

取扱い：

- ・換気の良い場所で取扱う。
- ・容器はその都度密栓する。
- ・周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
- ・静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。
- ・工具は火花防止型のものを使用する。
- ・作業中は帯電防止型の作業服、作業靴を使用する。

保管：

- ・日光の直射を避ける。
- ・通風の良いところに保管する。屋内に保管する。
- ・火気、熱源から遠ざけて保管する。

< 8. 暴露防止及び保護措置 >

危険有害成分の暴露濃度：情報を有していない。

設備対策：給排気が充分取れる設備とする。

保護具：

- ・目の保護：取扱いには保護メガネを着用する。
- ・皮膚の保護：有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- ・呼吸系の保護：ミストなどの吸入を防ぐマスクを着用する。

< 9. 物理的及び化学的性質 >

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲：

- ・密度；0.91 ~ 0.94 g/cm³
- ・融点；115℃以上
- ・溶解性；水に不溶

< 10. 安定性及び反応性 >

安定性：通常の条件下では安定性に問題はない。

危険有害反応可能性：製品自体は重合しない。

避けるべき条件：特に情報が得られていない。

混触危険物質：特に情報が得られていない。

危険有害な分解生成物：燃焼するとホルムアルデヒド、NO_x、COを生成することがある。

< 11. 有害性情報 >

特に有害性情報を有していない。

<12. 環境影響情報>

- ・漏洩時、廃棄などの際は、環境に影響を与える恐れがあるので取扱いに注意する。
- ・特に製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処する。
- ・本製品の分解性、蓄積性、魚毒性については情報を有していない。

<13. 廃棄上の注意>

- ・廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
- ・容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さない。
- ・廃水処理等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をする。

<14. 輸送上の注意>

- ・共通：・取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。
 - ・容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
- ・陸上輸送：法規に該当しない。
- ・海上輸送：法規に該当しない。
- ・航空輸送：法規に該当しない。
- ・国連分類及び国連番号：該当しない

<15. 適用法令>

- ・化学物質管理促進法（P R T R法）
非該当
- ・消防法：指定可燃物（合成樹脂類）

<16. その他の情報>

主な引用文献

- ・(社)日本塗料工業会編集「GHS対応SDSラベル作成ガイドブック」
 - ・(社)日本塗料工業会編集「SDS用物質データベース」
-

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づき作成していますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。

未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要で、ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い致します。